



N-BLOOD

NISMO Motorsports
Communication Magazine

NISMO Motorsports Communication Magazine **N-BLOOD** 2019 / JANUARY No.81 NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

SAMPLE



N-BLOOD

NISMO Motorsports Communication Magazine
2019 / JANUARY

No. **81**

nismo

Produced by NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

新時代の扉を開け

NISMO FESTIVALで、ついにファンの前に姿を現したフォーミュラEマシン
 そしてニスモが製作したレーシングカー、NISSAN LEAF NISMO RC
 形は違えど、いずれも“ニッサン インテリジェント モビリティ”の延長線上にあるものだ
 電気自動車のもつ可能性を追い求めてフォーミュラEに臨む日産/ニスモ
 道は険しいかもしれない。しかし飽くなき挑戦の姿勢こそが、新時代の扉を開ける鍵となる
 さらなる高みを目指して、日産/ニスモは走り続ける



- 4 **2018/19 FIA Formula E Championship**
開幕戦・サウジアラビアを現地観戦
- 8 **New EV Racing Car**
誕生! NISSAN LEAF NISMO RC
- 12 **INTERVIEW_2018 SUPER GT SERIES**
田中利和総監督インタビュー
- 16 **2018 SUPER GT SERIES-GT500 CLASS**
第7戦~第8戦 レースレポート
- 17 **NISMO AMBASSADOR COLUMN**
柿元邦彦
- 18 **SPECIAL INTERVIEW**
近藤真彦監督
- 20 **MACAU FIA GT WORLD CUP**
松田次生 マカオグランプリへの挑戦
- 21 **2019 IMSA WeatherTech SportsCar CHAMPIONSHIP**
ニッサン・オンロードDPi
IMSAトップカテゴリーに参戦
- 22 **ROLEX MONTEREY MOTORSPORTS REUNION**
日産/ダットサンのヘリテージマシンが、
ラグナセカに大集合
- 24 **NISMO FESTIVAL at FUJI SPEEDWAY 2018**
NISMO FESTIVALの裏側をお見せします
- 28 **2018 JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP**
ノートNISMO S、最終戦でシーズン初勝利!
- 30 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 32 **NISMO PRODUCTS**
NISMOパーツ最新情報
- 34 **Club NISMO YEAR-END PARTY 2018**
松田・ロニー選手参加の忘年会は大盛況
- 38 **SUPPORTER'S PADDOCK**
ビットツアー参戦記/読者プレゼント



FIA Formula E Championship

開幕戦・サウジアラビアを現地で体感した！

ついに開幕となったフォーミュラE・シーズン5。日産e.damsチームは新型フォーミュラEマシンを導入して初参戦を果たした。サウジアラビアで現地観戦したモータージャーナリストの橋本洋平氏が、熱い開幕戦の様子をレポートする

Text by Yohei Hashimoto Photos by NISSAN, Yohei Hashimoto

日産がグローバルなレースシーンに帰ってくる！ そう聞けば、日産／ニスモファンとしては応援せずにはられない。ステージはFIA公認の選手権であるフォーミュラE選手権。爆音を発することもなく走る電気自動車のフォーミュラカーレースとは、一体どのような世界なのだろうか？ その開幕戦が行われた中東の国・サウジア

ラビア・リヤドを訪れ、現場で感じたことをお伝えする。

レースだけでない楽しみ方を提供

今回の開幕戦で5シーズン目に突入するこのシリーズは、使うシャシーや空力パーツ、そして

バッテリーをどのメーカーも共通としながらも、モーターやインバーター、そしてギアボックスは独自のものを開発するというレギュレーションで争われる。そのベースとなる車両は今シーズンよりGen2と呼ばれる新たな車両がベースとなり、バッテリー容量が増。これまで2台を1名のドライバーが乗り換えてレースを走り切っていた

が、今シーズンからは1台の車両でピットインをすることなくレースを走り切れるようになった。また、“アタックモード”が搭載され、レコードライン外の指定された不利なラインを通れば、10%以上の出力アップを許されるところも新たなトピックだ（使用できる回数などはレース直前にチームへ知らされる）。日産といえば、電気自動車界のバイオニア的存在であり、すでに量販の電気自動車であるリーフを、グローバルで36万台以上販売していることは周知の事実だ。この技術のノウハウがあれば、かなり期待できるに違いない。モーター出力の出し方やエネルギー回生の効率、そしてそのマネージメントがレースの勝敗を左右するだけに、面白い戦いになりそうだ。

リヤドの市街地からクルマでわずか10分程度のところに位置しているコースに向くと、そこは異質な空間だった。厳重なセキュリティチェックが行われるゲートを通ると、そこには各種アトラクションが迎えてくれる。いま流行りのレースシミュレーターが多く配置される一方、レースに関わる自動車会社各社の市販EVを展示するスペースも存在。プチモーターショー的な感覚がそこにある。さらに、会場の真ん中には野外

ライブ会場が供えられており、そこでアメリカの人気ロックバンド「OneRepublic」をはじめとするライブが行われるというのだ。もちろんレースがメインではあるが、それ以外の時間も楽しませようという雰囲気が満載だ。

そのアトラクションスペースをぐりぐり抜けて行けば、いよいよコースである。ピットも観客席もすべて今回のレースのために造られており、訪れたレースウィークの金曜日にはまだ突貫工事が行われている最中といった感じ。日本的な感覚だと、これでレースができるのかと疑問を持つが、それでも十分にスケジュールはこなせている。その理由のひとつに、メインとなるフォーミュラEが1DAYレースということもあるだろう。予選から決勝までが1日に凝縮されているからこそ、そんな状況でも開催が可能なのだ。金曜日にはチェック走行が行われるのみで、しかもそこでは全開走行も行われない。これなら、レース当日だけ訪れても十分に楽しめるだろう。旅行のついでに1日だけレースを楽しむ、そんな気軽な感覚でフォーミュラEを観戦するのもいいかもしれない。日本からなら、近場の香港ラウンドあたりがオススメだ。

開幕当日は大雨のために練習セッションが中止。公式予選も通常は4グループに分けて行い、「スーパーボール」セッションが行われるところだが、22台のマシンを2グループに分けて行われる形式に変更になった。フェミは予選3位、ローランドは予選14位で本戦に挑んだ。





2018年から女性の自動車運転が解禁となったサウジアラビア。その影響もあり、これまで以上にモータースポーツ人気が高まっているのだという。

注目の開幕戦がスタート!

フォーミュラEといえば市街地を走行するイメージだが、今回のコースはそのほとんどがこのレースのために造られたようだ。舗装もきちんと整備されている。ただし、路面には砂漠からの砂が絶えず舞い込んでおり、それを除去するためのスィーパーが空き時間に走っていた。これもサウジアラビアならではのかもしれない。それが終わり、チェック走行の様子を見ると、当然だがエキゾーストノートはなく、モーターやインバーター、そしてギアボックスが発する音がキューンと響き、新時代のモータースポーツであることを強く感じた。使われているタイヤが市販タイヤ

のような溝付きということもあり、コーナーを通過する度にスキール音がかなり出ていたことも印象的だった。ここで興味深かったのは各ドライバーのアクセルワークが手に取るように感じられたことだった。スムーズにコントロールするドライバーがいる一方で、かなりアグレッシブに操作するドライバーまで、それぞれのキャラが目瞭然になる。そして操作と車体の動きが見事にリンクする。ブレーキング開始位置などもハッキリわかるから面白い。コース脇で見る醍醐味はこのあたりにあるかもしれない。

レース当日は、雨が少ないサウジアラビアでは珍しい降雨の影響でコースコンディションがなかなか改善されず、変則スケジュールとなった。ここでEVレースならではの難しさが見えてきた。そ



23号車のプエミは「6位フィニッシュは悔しいです。雨の影響でグリップがあまりなく、難しいレースでした」と振り返る。

れはエネルギー回生の難しさだ。減速時に回生ブレーキが効きすぎてリアタイヤがロックし、車両姿勢を乱すクルマも見られ、それをきっかけにコースアウトする車両もあった。この辺りのエネルギーマネジメント力がレースの勝敗を左右するかもしれない。

また、「ファンブースト」と呼ばれるドライバーの人気投票によって、上位5名のみが決勝レース中に10%以上の出力アップを許されることもポイントだ。今回優勝したドライバーはこれを上手く活かしていた。プエミとローランドは、ファンブーストで9位と19位ということも影響したのか苦戦を強いられ、結果的には6位と7位で終わった。プエミは予選3位から一時2位まで上がる魅せ場も作っていただけに残念な気もするが、初戦にしては上々の結果といえるだろう。ちなみにファンブーストの投票はフォーミュラEのwebサイトで日本からも行えるので、日産ファンならぜひプエミとローランドを後押しして欲しい。そして、もし可能ならば現場に出向いてもらえば最高だ。



開幕戦は新型のシャシーやバッテリー、新しいエアロダイナミクスを採用した第二世代のマシン「Gen2」のデビュー戦でもあった。

開幕戦はプエミが6位、ローランドが7位で2台ともにポイントを獲得し、上々のスタート!

橋本氏が現地で撮影した写真を紹介!



会場に到着したのは、レース本番直前となる金曜日。それなのにコースの多くで工事中というはお国柄なのだろうか? また、アラブの民族衣装「カンドゥラ」を身にまとった人が多いのも特徴的だ。



ドライバーにオリバー・ローランドを起用

N-BLOOD 80号にて紹介したドライバー、アレクサンダー・アルボンに代わって、イギリス出身のオリバー・ローランドが後任としてステアリングを握ることになり、開幕戦から出場を果たした。

ローランドは、26歳の若手有望株のドライバー。英国内のカート選手権に参戦したのち、フォーミュラ・ルノーシリーズやフォーミュラ2選手権に参戦するなどの戦歴を持つ。2018年10月に行われた公式テストでは、日産のフォーミュラEマシンをドライブしており、経験も積んでいる。セバスチャン・プエミとの2人体制で挑むローランドは「ドライバーとして選ばれたことは光栄。プエミと一緒に戦うのは素晴らしい機会ですし、フォーミュラEで最高のドライバーに挑戦することを楽しみにしています」とコメントした。なお、リザーブ兼テストドライバーには高星明誠、シミュレータードライバーはヤン・マーデンボローが務めることも発表された。



Oliver Rowland オリバー・ローランド
1992年8月10日生まれ 26歳
出身地: イギリス・シェフィールド(国籍・イギリス) 身長: 177cm

- 主な来歴
- 2011年 フォーミュラ・ルノーUKファイナルシリーズで年間4勝を挙げ、シリーズチャンピオンを獲得
 - 2015年 フォーミュラ・ルノー3.5で17戦8勝、13戦で表彰台に上り、シリーズチャンピオンを獲得
 - 2015年 マヒンドラチームのドライバーとしてフォーミュラEデビュー
 - 2017年 FIA F2選手権にDAMSから参戦、シリーズ3位
 - 2018年 ル・マン24時間レースに初参戦
 - 2018年 ウィリアムズF1チームの育成ドライバーに起用
 - 2018/2019年 フォーミュラEシーズン5における日産e.damsチームのドライバーに起用

2018忘年会初開催!

Club NISMO 初となる「Club NISMO 2018 忘年会」が東京・自由が丘バーガー青山店で開催されました。たくさんの応募の中から当選された幸運な会員様と松田次生、ロニー・クインタレリ両選手と直接触れ合うことができる貴重なイベントとして大いに盛り上がりました。



Photos by Yasuhiro Oshima

松田選手、ロニー選手がみなさんをお出迎え&忘年会スタート

松田・ロニー両選手の乾杯の首領で忘年会がスタート!



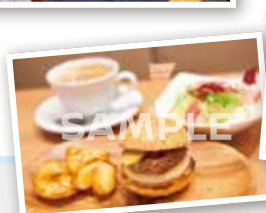
GT第2戦で優勝した際にスポンサーのMOTULさんからいただいたシャンパン。



ネームカードの裏には両選手の直筆サイン! カード裏の「Thank You」の文字も両選手直筆です。



乾杯のシャンパンは、なんと両選手から手渡しされるサプライズ。



提供される料理は、そのほとんどがオーガニック素材を用いた体に優しいメニュー。

12月14日(金)18時、忘年会に参加される幸運な会員みなさんが、続々と集まってきました。受付を済ませると、まずはプロのカメラマンによる選手との記念撮影が行われ、そして松田、ロニー選手の挨拶のあとの「乾杯」でいよいよ忘年会のスタートです。両選手はみなさんと同じテーブルについて食事を楽しみながら歓談。会員の方向士もすぐに仲良くなって和気あいあいの様子です。

子供の頃のレアな写真を交えてのトークショー

前菜を食べ終ると席の移動が行われ、両選手によるトークショーが行われました。トークテーマは「日産/ニスモのレーシングドライバーになるまで」。可愛らしい子供時代の写真から、プロのドライバーを目指して奮闘し

ている青年期の写真をプロジェクターに投影してのフリートーク。レース同様、抜群のコンビネーションで繰り広げられるふたりの掛け合いに大いに盛り上がりました。オフの日の写真も紹介され、みなさん興味津々の様子。



松田選手、幼稚園頃の写真からも今の面影が。この時、すでにゴーカートに乗っています。鈴鹿サーキットレーシングスクール時代の写真も公開。



イタリア北部ヴェローナ出身のロニー選手。地元は昔からモータースポーツの人口が高く、市街地でレースイベントが行われているとか。

シーズン中には見せないリラックスした表情でトークショーを行うふたり。ロニー選手がボケて、松田選手もボケるといふツッコミ不在のトークでしたが、それもまたご愛嬌ということで。



ロニー選手のご家族は、イタリアでワイナリーを営んでいるとのこと。そのワインが特別に振舞われました。



白熱!豪華プレゼントをめぐりビンゴゲーム



松田選手提供のカレンダーをめぐるじゃんけん大会も急遽開催。非売品の貴重なものだそうです。



ビンゴゲームの景品は、スタッフ専用ウェアや選手提供のシューズといった非売品から、レースカーのダイキャストモデルや腕時計など出血大サービス!



「なかなかビンゴにならず、少し焦りましたが、なんとかお気に入りのグッズを手に入れることができました」と笑顔。

終盤には、豪華景品が当たるビンゴゲームが開催されました。景品は松田選手、ロニー選手、チームから提供され、そのほとんどは非売品でしたが、中には高額なものもあって、みなさん選ぶのに苦労していました。

この日、都合で会場まで来られなかった方の代わりに、松田・ロニー両選手がピンチヒッターで参加するひと幕も。賞品は、両選手から手渡され、その都度写真撮影が行われました。

サイン会&宴の終わり



予定されていた3時間の忘年会もあっという間に終わりの時間となりました。最後にはひとりひとり持参したグッズやビンゴゲームの景品などにサイン&記念撮影を行い、全員で集合写真を撮影して終了です。参加されたみなさまには、当日にプロカメラマンが撮った約200枚の写真が配布され、後日、両選手のサイン入りの集合写真が送られることになっています。Club NISMO 2018忘年会への参加、本当にありがとうございました。

名残り惜しいですが、今回はこれにて終了。選手&スタッフ一同でお見送りです。またSUPER GTの会場などでお会いしましょう。

